

平成三十年一月二十九日提出
質問 第三六号

国難ともいえる「それで何人死んだんだ」という松本内閣府副大臣の発言に関する質問主意書

提出者 逢坂 誠二

国難ともいえる「それで何人死んだんだ」という松本内閣府副大臣の発言に関する質問主意書

平成三十年一月二十五日の衆議院本会議で行われた各党の代表質問の中で、日本共産党の志位和夫議員が米軍機の問題などに触れた際、内閣府副大臣を務める松本文明氏は議員席から「それで何人死んだんだ」との不規則発言を行った。

同月二十六日、松本文明氏は、安倍総理と総理大臣官邸で面会し、当該不規則発言を行った責任を取り、辞表を提出、受理された。安倍総理との面会后、松本文明氏は記者団に「不規則発言で、人が亡くならなければいいのかというような誤解を招いた」と述べ、「沖縄県民、国民の皆さんに迷惑をかけた」と謝罪し、安倍総理から「この国が大変な時期なので緊張感を持って対応してもらわないと困る」と注意されたことを明らかにした。

これらの発言に関して、以下質問する。

一 昨今発生している在沖米軍のヘリコプターの不時着事案に関して、「それで何人死んだんだ」、言い換えれば、死者はいないのではないか、深刻なトラブルではないだろうと揶揄する松本内閣府副大臣の認識は政府内では共有されていないという理解でよいか。

二 安倍総理は「この国が大変な時期なので緊張感を持って対応してもらわないと困る」と発言したとされるが、松本内閣府副大臣の「それで何人死んだんだ」という発言のどういふ点が問題と感じ、辞表を受理したのか。

三 松本内閣府副大臣のような認識を持ち、沖縄へのこのような感情を持つものが政府の要職に就いていることこそが国難であると考えられるが、政府の見解如何。

四 アメリカの Stars and Stripes 紙は、平成三十年一月六日の午後四時ごろ、沖縄県うるま市の伊計島東側の砂浜に米軍普天間飛行場（宜野湾市）に所属する海兵隊のヘリコプターが不時着した件に関しては、

“The Marines told Japanese officials that a UH-1Y Venom from the 1st Marine Aircraft Wing made a “preventive landing” just after 4 p.m. on an Ikei Island beach after a warning light came on indicating excessive speed from its main rotor”（海兵隊関係者は、第一海兵航空機隊所属の UH-1Y Venom が、メインローターから過度のスピードを示す警告灯が点灯した後、午後四時に「予防着陸」を行ったと日本政府当局者に伝えた）と表現しているが、多くの日本国内の報道は不時着であったと報道している。当該事案は、米軍のヘリコプターのパイロットが操縦の制御を失ったための不時着であったのか、そ

れともパイロットが事前に危険を察知し、冷静に伊計島の砂浜に予防的に着陸したものであるのか。すなわち、政府も米軍と同様の認識で、当該事案は不時着ではなく予防着陸であると認識しているのか。政府の見解如何。

五 安倍総理は、国難ともいえる「それで何人死んだんだ」という松本内閣府副大臣の発言および松本文明氏のような沖縄への感情を持つ人物を内閣府副大臣に任命したことの任命責任を踏まえ、沖縄の方々に謝罪すべきではないか。総理の見解如何。

右質問する。